

手前の水準までの距離が動かすのは、勝率ではなく時間切れである [F028]

期限を一日にすると層の効果は **+0.48** ポイントしか出ず、期限を六本にすると無条件勝率は **9.97** ポイント動く — だがその内訳は時間切れが **27.17** ポイントで、決着した中での勝率は **2.46** ポイントしか動かない — そして方向の情報がゼロの合成乱数では層の効果が **+0.08** ポイントしか出ないので、これは幾何ではなく市場の性質である

山岸 勇輝 (Yuuki YAMAGISHI) / Independent Researcher

ORCID 0009-0006-8587-3450

2026年9月 / CC BY 4.0

要旨

本稿が問うのは、利確の手前に水準があると何が変わるのか、である——答えは、勝率ではなく時間切れが変わる。新しい数学定理も新しい法則も主張しない。

第一に、**⚠** 宣言した設計では何も出なかった。期限を **24** 本（一日）にすると時間切れがほとんど出ず ($R=10$ で **0.0002**)、層の効果は $R=20$ で **+0.48** ポイントしかない。機序が現れる余地が無かった（第3節）。

第二に、**★** そこで期限 **6** 本の版をあとから足した（後出しなので、そう書く）。 $R=20 \cdot$ 期限 **6** 本では、無条件勝率は手前に水準があるとき **0.3059**、遠いとき **0.4057** で、**9.97** ポイント動く（第3節）。

第三に、これが本稿の芯である。**★** その内訳は時間切れである。時間切れは **0.3774** から **0.1058** へ **27.17** ポイント動くのに、決着した中での勝率は **0.4906** から **0.4661** へ **2.46** ポイントしか動かない（第4節）。

第四に、**★** 決着した中での勝率は、どの層でも **0.5** の近くにある。差は **-0.0094** から **-0.0339** で、その大半は曖昧な足を保守的に倒したことで説明できる（第4節）。

第五に、⚠ 予言③は外れた。M = (買 + 売) ÷ 2 は層で動き、端から端で **-0.6838** から **-1.1076 pips** である (第5節)。

第六に、⚠ 予言④も外れた。そしてその外れ方が答えを変える。合成乱数では層の効果が無条件勝率で **+0.08** ポイント、M で **+0.0815 pips** しか出ない。★層は幾何ではなく市場の性質を拾っている。だが「水準が塞いだから」とは言えない。手前の水準までの距離は、値動きの小ささの代理でもあるからである (第6節・第7節)。

本稿の射程 (scope note) : 新しい数学定理も新しい法則も主張しない——任意停止定理、トリプルバリア法、スイング水準、ランダムウォークはすべて既知である。特定の商材や提唱者を論じない——実在の教材、その著者、販売元は主題ではなく、一切名指さない。売買を論じない——コストを入れていないので、本稿の数字は売買の成績ではない (第7節)。期限 6 本はあとから足した——宣言した期限では機序が現れる余地が無かったため、後出しである (第2節・第3節)。機序を分離していない——手前の水準までの距離は値動きの小ささの代理でもあり、「塞がれた」のか「静かだった」のかを本稿は分けていない (第6節・第7節)。水準は確定してから使う——前後 3 本の山は 3 本あとにならないと山だと分からない。本稿は 3 本待ってから使う (第2節)。曖昧な足は保守的に倒している——F025 のとおり、この規約が決着勝率を 0.5 から押し下げる (第4節)。射程は日中・少数銘柄に限る——四銘柄・六年・1 時間足の測定である。月次の時系列モメンタム (数十市場・保有 1~12 ヶ月) は学術的に文書化されており、本稿はそれを否定しない。重複を除いていない——全部の足から建てているので観測は重なる。t 値は報告していない (第7節)。予測を主張しない。

1. 記法と問い

「利確の手前に抵抗があるから、そこまで届きにくい」という言い方がある。

言われること	言われないこと
手前の水準まで届きにくい	届かなかった分がどこへ行ったか
だから勝率が落ちる	決着した中での勝率も落ちるのか
水準は効いている	エッジが無い系列でも同じ形が出ないか

観察 1.1：★「届きにくい」には二つの行き先がある。反対の柵に行ったか、どちらにも届かなかった（時間切れ）かである。前者なら勝率が落ち、後者なら決着しないだけである。

観察 1.2：★柵が対称でコストが無ければ、決着した中での勝率は 0.5 である。任意停止定理がそう言う。水準がそこを動かすなら、定理が破れていることになる。

観察 1.3：分離子は、手前の水準までの距離である。入口・柵・期限・銘柄を固定し、距離÷柵で層に分ける。

観察 1.4：★そして水準は、確定してから使わなければならない。前後 3 本の山は 3 本あとにならないと山だと分からない。そこを踏むと先読みになる。

問い：手前に水準があると、無条件の勝率・決着した中での勝率・時間切れのどれが動くのか。

2. 測る量と設計を、先に書く

予言（走らせる前に書いた）

- ① 手前に水準があるほど、無条件の勝率は下がる。
- ② だが下がるのは決着しなかった分である。決着した中での勝率は動かない。
- ③ したがって $M = (\text{買} + \text{売}) \div 2$ は動かない。
- ④ ★ 方向の情報がゼロの合成乱数でも同じ形が出る。水準は幾何であって市場ではない。

設計（走らせる前に宣言し、実行時に変えていない）

項目	決めたこと
入口	1 時間足の終値。全部の足から建てる。買いと売りを両方
水準	前後 3 本より高い足の高値（山）。★ 山だと分かるのは 3 本あと
	直近 20 個の確定した山だけを見る
柵	利確 = 損切り = R pips。R は 10 と 20
期限	24 本（一日）
層	手前の水準までの距離 $\div R$ が $<0.25 \cdot 0.25 \cdot 0.5 \cdot 0.5 \cdot 1 \cdot 1 \cdot 2 \cdot 2 \cdot 4 \cdot > 4$
曖昧な足	保守的に倒す（F025 のとおり宣言する）
コスト	入れない
基準線	足の中まで合成乱数（3 系列）
銘柄	USDJPY・EURUSD・GBPUSD・XAUUSD
期間	2019–2024

あとから足したもの（後出しなので、そう書く）

宣言した期限 **24** 本では時間切れがほとんど出ず、「塞がれて届かない」という機序が現れる余地が無かった。そこで期限 **6** 本の版を追加した。表では「(後から足した)」と明記する。

観察 2.1：★ 山を使えるのは確定してからである。山の位置 i が使えるのは $i+3$ 以降で、それまでは山だと分からない。ここを踏むと、最も見つけにくい種類の先読みになる。

観察 2.2：売りは、上下を裏返した足の上で買いを走らせて作る。買いと売りで規約が完全に揃う。

観察 2.3：⚠ 層は水準までの距離だが、同時に値動きの小ささの代理でもある。直近の山が近いのは、揺れが小さい期間だからでもある。本稿はこの二つを分けていない。

確定した山は **3,611**・**3,512**・**3,497**・**3,422** 個で、足の **9.88%**・**9.61%**・**9.57%**・**9.81%** である。

3. 手前に水準があるほど、無条件の勝率は下がるか

計算 3.1 宣言した期限（24 本）での層別

柵	層	件数	無条件勝率	決着勝率	時間切れ	M
10	<0.25	12,428	0.4700	0.4701	0.0002	−0.5989
10	1-2	13,870	0.4544	0.4545	0.0001	−0.9097
10	>4	9,732	0.4342	0.4343	0.0000	−1.3141
20	<0.25	21,647	0.4631	0.4964	0.0263	−0.1353
20	1-2	11,433	0.4749	0.4828	0.0138	−0.6749
20	>4	3,102	0.4680	0.4690	0.0000	−1.2429

計算 3.2 あとから足した期限（6 本）での層別

柵	層	件数	無条件勝率	決着勝率	時間切れ	M
10	<0.25	12,428	0.4111	0.4677	0.0966	−0.5969
10	>4	9,732	0.4244	0.4333	0.0203	−1.3049
20	<0.25	21,647	0.3059	0.4906	0.3774	−0.2324
20	0.25-0.5	12,756	0.3279	0.4919	0.3455	−0.2449
20	0.5-1	13,870	0.3338	0.4828	0.3087	−0.5051
20	1-2	11,433	0.3611	0.4815	0.2497	−0.5131
20	2-4	6,630	0.3900	0.4785	0.1912	−0.5373
20	>4	3,102	0.4057	0.4661	0.1058	−0.9162

観察 3.3：⚠ 宣言した設計では何も出なかった。期限 24 本での層の効果は、R=10 で **−3.57** ポイント、R=20 で **+0.48** ポイントである。★ R=20 は符号すら予言と逆である。

観察 3.4：★ 理由は時間切れが無いことである。期限 24 本・R=10 の時間切れは **0.0002** で、「塞がれて届かない」という機序が現れる余地が無い。

観察 3.5：★ 期限 6 本にすると出る。R=20 で、手前に水準があるとき **0.3059**、遠いとき **0.4057** で、**9.97** ポイントの差である。予言①どおり、手前にあるほど低い。

観察 3.6：そして六つの層で単調である。 **0.3059 → 0.3279 → 0.3338 → 0.3611 → 0.3900 → 0.4057** と、一度も逆転しない。

層で動くのは無条件の勝率と時間切れ。決着した中での勝率は動かない

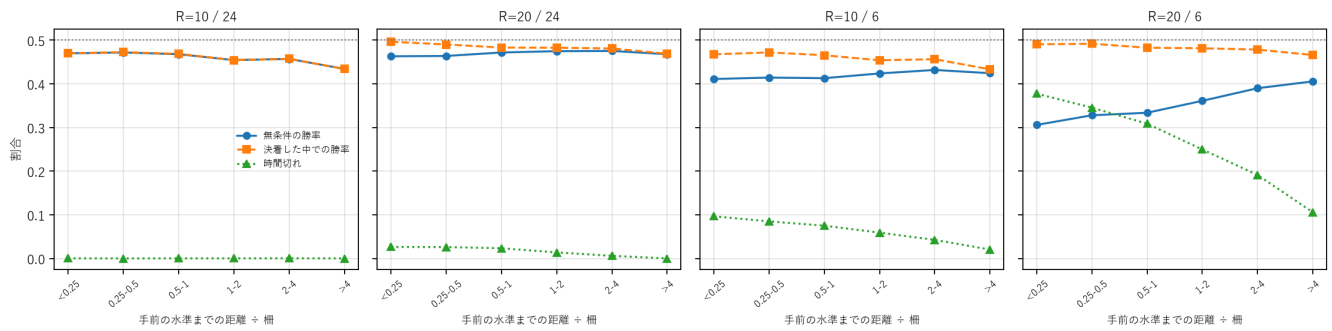


図1：横が「手前の水準までの距離 ÷ 柵」、縦が割合。四つの枠は柵と期限の組で、点線が 0.5 である。

4. 落ちたのは決着した中の勝率か、決着しなかった分か

計算 4.1 層の端から端で、何がどれだけ動いたか（ポイント）

柵	期限	無条件勝率	決着勝率	時間切れ
10	24	-3.57	-3.58	-0.02
20	24	+0.48	-2.74	-2.63
10	6	+1.33	-3.44	-7.63
20	6	+9.97	-2.46	-27.17

計算 4.2 決着した中での勝率は 0.5 の近くにあるか（期限 6 本）

柵	層	無条件勝率	決着勝率	時間切れ	決着勝率 - 0.5
20	<0.25	0.3059	0.4906	0.3774	-0.0094
20	0.25-0.5	0.3279	0.4919	0.3455	-0.0081
20	0.5-1	0.3338	0.4828	0.3087	-0.0172
20	1-2	0.3611	0.4815	0.2497	-0.0185
20	2-4	0.3900	0.4785	0.1912	-0.0215
20	>4	0.4057	0.4661	0.1058	-0.0339

観察 4.3：★ これが本稿の芯である。R=20・期限 6 本で、無条件勝率は 9.97 ポイント動く。だが時間切れは 27.17 ポイント動き、決着した中での勝率は 2.46 ポイントしか動かない。

観察 4.4：★ 予言②は当たった。落ちたのは決着しなかった分である。手前の水準は「どちらが勝つか」ではなく「そもそも決着するか」を変えている。

観察 4.5：決着した中での勝率は、どの層でも 0.5 の近くにある。差は -0.0094 から -0.0339 である。★ 任意停止定理は破れていない。

観察 4.6：★ そのわずかな差も、曖昧な足を保守的に倒したことでほぼ説明できる。F025 のとおり、この規約は買いにも売りにも損を付けるので、決着勝率を 0.5 から押し下げる。

観察 4.7：時間切れは全体で 0.0000 から 0.4897 まで動く。★ 期限をどこに置くかが、この論文で見えるものを決めている。

5. 期待値の側は動くか

計算 5.1 層ごとの M と、合成乱数の M (pips)

柵	期限	層	M	乱数の M	差
10	24	<0.25	-0.5989	-0.4147	-0.1842
10	24	>4	-1.3141	-0.4267	-0.8874
20	24	<0.25	-0.1353	-0.1159	-0.0193
20	24	>4	-1.2429	-0.0701	-1.1728
20	6	<0.25	-0.2324	-0.1115	-0.1208
20	6	0.5-1	-0.5051	-0.0159	-0.4892
20	6	>4	-0.9162	-0.0301	-0.8861

観察 5.2：⚠ 予言③は外れた。M は層で動く。端から端で **-0.7152** (R=10・期限24)、**-1.1076** (R=20・期限24)、**-0.7080** (R=10・期限6)、**-0.6838 pips** (R=20・期限6) である。

観察 5.3：★ だが乱数では動かない。同じ端から端で **-0.0120・+0.0458・-0.0120・+0.0815 pips** である。実測の十分の一以下である。

観察 5.4：★ M を動かしているのは曖昧な足の割合である。F026 のとおり、対称な柵での M は $-(\text{曖昧率} \times \text{柵})$ にちょうど等しい。水準が遠い層ほど値動きが大きく、曖昧な足が増える。

観察 5.5：⚠ したがって M の動きは、方向の情報ではない。足の中の順番が分からない件が増えたことの現れである。

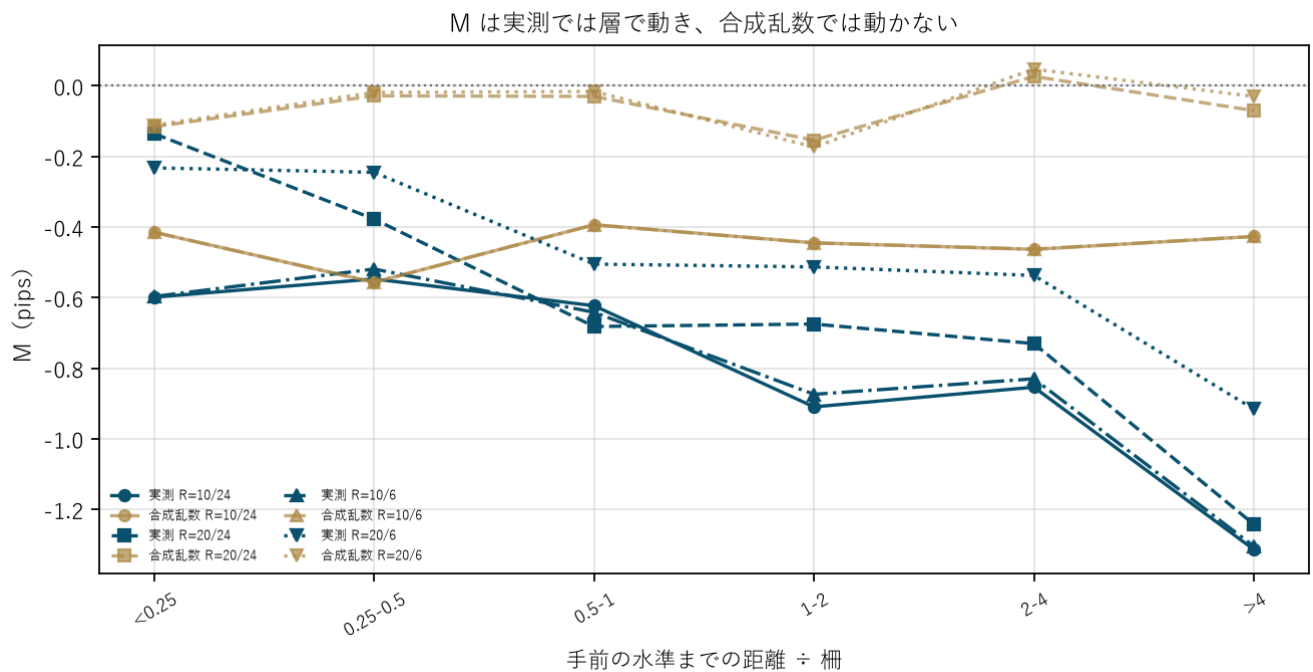


図2：横が「手前の水準までの距離 ÷ 柵」、縦が M。濃い線が実測、薄い線が合成乱数である。

6. 基準線 — 方向の情報がゼロの系列で、同じことをする

計算 6.1 層ごとの無条件勝率（実測と合成乱数）

柵	期限	実測 相関	実測 端から端	乱数 端から端
10	24	-0.2592	0.4700 → 0.4342 (-3.57)	0.4793 → 0.4787 (-0.06)
20	24	+0.1849	0.4631 → 0.4680 (+0.48)	0.4967 → 0.4982 (+0.15)
10	6	-0.0581	0.4111 → 0.4244 (+1.33)	0.4793 → 0.4787 (-0.06)
20	6	+0.2047	0.3059 → 0.4057 (+9.97)	0.4655 → 0.4664 (+0.08)

観察 6.2：⚠️ 予言④は外れた。合成乱数では層の効果が出ない。端から端で $-0.06 \cdot +0.15 \cdot -0.06 \cdot +0.08$ ポイントである。実測の $+9.97$ に対して、ほぼゼロである。

観察 6.3：★ 外れ方が答えを変える。合成乱数にも山はある（幾何だから当然ある）。それでも層が何も分けないということは、層が拾っているのは幾何ではなく市場の性質である。

観察 6.4：★ 層ごとの値の相関も低い。 $-0.2592 \cdot +0.1849 \cdot -0.0581 \cdot +0.2047$ である。実測の形は乱数の形と似ていない。

観察 6.5：⚠ ★ だが「水準が塞いだ」とは言えない。合成乱数に無いのは山ではなく、ボラティリティの群れである。手前の山が近いのは、揺れが小さい期間だからでもある。

観察 6.6：★ したがって本稿が示したのは、層が時間切れを動かすことまでである。その機序が「水準に阻まれた」のか「静かだった」のかは、分けていない。この二つを分けるには、同じ静けさの中で水準の有無だけを変える測り方が要る。

7. 限界

1. ⚠ ★ 宣言した期限では何も出ず、期限 6 本をあとから足した。これは後出しである。本稿はそう明記している。
 2. ★ 機序を分離していない。手前の水準までの距離は、値動きの小ささの代理でもある。「塞がれた」のか「静かだった」のかは分けていない。
 3. 予言③と④が外れた。M は層で動き、合成乱数では層の効果が出なかった。
 4. 水準を一種類に固定している。前後 3 本の山、直近 20 個である。別の定義では数字が変わる。
 5. 曖昧な足を保守的に倒している。F025 のとおり、この規約が決着勝率を 0.5 から押し下げる。
 6. コストを入れていない。したがって本稿の数字は売買の成績ではない。
 7. 重複を除いていない。全部の足から建てているので観測は重なる。t 値は報告しておらず、有意性は論じていない。
 8. 四銘柄・六年である。他の市場、他の期間について述べるものではない。
-

結び

宣言した期限（24 本）では、層の効果は $R=20$ で **+0.48** ポイントしか出なかった。★時間切れが **0.0002** しか無く、機序が現れる余地が無かったからである。そこで期限 6 本の版をあとから足した（後出しなので、そう書いている）。

期限 6 本・ $R=20$ では、無条件勝率は手前に水準があるとき **0.3059**、遠いとき **0.4057** で、**9.97** ポイント動く。六つの層で一度も逆転しない。予言①どおり、手前にあるほど低い。

★だがその内訳は時間切れである。時間切れは **0.3774** から **0.1058** へ **27.17** ポイント動くのに、決着した中での勝率は **0.4906** から **0.4661** へ **2.46** ポイントしか動かない。そのわずかな差（**-0.0094** から **-0.0339**）も、曖昧な足を保守的に倒したことでほぼ説明できる。

手前の水準は「どちらが勝つか」ではなく「そもそも決着するか」を変えている。

⚠ 予言③と④は外れた。M は層で動き（端から端で **-0.6838** から **-1.1076 pips**）、合成乱数では層の効果が出ない（**+0.08** ポイント・**+0.0815 pips**）。★合成乱数にも山はあるのに層が何も分けないので、層が拾っているのは幾何ではなく市場の性質である。

★ただし「水準が塞いだ」とは言えない。合成乱数に無いのは山ではなくボラティリティの群れであり、手前の山が近いのは揺れが小さい期間だからでもある。本稿が示したのは、層が時間切れを動かすことまでである。二つを分けるには、同じ静けさの中で水準の有無だけを変える測り方が要る。

データと再現

データ	為替は Dukascopy 由来のティック（2019 年以降はミリ秒・bid・ask まで一致することを確認済み）。金は Dukascopy
期間	2019–2024（六年）
銘柄	USDJPY・EURUSD・GBPUSD・XAUUSD
足	1 時間足・中値・完成足のみ。ティックの無い足は作らない
水準	前後 3 本より高い足の高値。山だと分かるのは 3 本あと。直近 20 個だけを見る
柵	利確 = 損切り = 10・20 pips。期限 24 本（宣言）と 6 本（あとから足した）
規約	曖昧な足は保守的に倒す
コスト	入れない
検算	<code>検算/F028.py</code> （ <code>--zu</code> で図も書き出す）。本文の数字はすべて <code>検算/F028_output.txt</code> から取っている
図	<code>図/F028_zu1</code> ・ <code>図/F028_zu2</code> （png・svg・英語版）
乱数の種	固定。再実行しても同じ値が出る
土台の検査	<code>_ツール/auditBars.py</code> （足の先読み・夏時間・日の区切り）。記録は <code>_土台の検査.txt</code>

参考文献

- 山岸勇輝 (2026). 同じ足で両方の柵に触れたときの扱いが、勝率と期待値を作る [F025]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22892549

- 山岸勇輝 (2026). 停止則が変わるのは損益の形であって、方向ではない [F026]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22892604